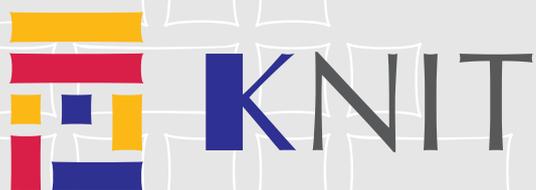


文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2023年度

# 活動報告書



# もくじ

## I. 事業概要と実施体制

事業概要	2
実施体制	2

## II. 2023年度取組

2023年度実施内容一覧	4
ダイバーシティ研究環境整備のための取組	7
研究力向上・リーダー育成のための取組	24
上位職への積極的登用に向けた取組	29
女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他	35

※報告内容に含まれる各種支援の申請者およびセミナー講師等の所属・職位・名称などは、申請時・開催当時のものです。

# Ⅰ. 事業概要と実施体制

## 事業概要

### 事業の名称

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

### 事業の概要

本事業では、北海道内外の大学と企業が連携し、多様な研究人材の活躍による地域活性化に向けて、研究環境の更なる改善と意識改革、キャリアアップと自立に向けた支援、女性リーダー、女性上位職・管理職の増加など、多くの取組を展開している。中でも中核となるのは、連携機関の共通の課題を可視化し、研究と組織変革をリードする「イノベーションコア人材（研究リーダー人材＋大学マネジメント人材）」を育成する取組である。

連携機関と連携し、女性研究者を含む多様な研究者が能力を発揮できる研究環境の更なる整備、多様なリーダー育成と登用、組織の意識改革等の取組への理解浸透を図りネットワークを構築する活動を行っている。

## 実施体制

### 連携の体制

北海道内外の6つの連携機関によって「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）」会議を設置（事務局：北海道大学）。2024年3月現在、協力機関数は12を数え、そのうち4機関は連携機関からの推薦によって参画している。

連携機関間で、セミナー等の相互配信の基盤を構築し、全国の先進事例や大学の在り方について考える勉強会等を協力して実施している。その結果、各機関での意識醸成が進み、大学での女性限定公募の実施などの意思決定につながった。

### 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）

#### <連携機関>

北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社

#### <協力機関>

株式会社スペースタイム、株式会社化合物安全性研究所、北海道システム・サイエンス株式会社、雪印種苗株式会社、株式会社山本忠信商店、公益財団法人とかち財団、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、株式会社ユニアル、国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課札幌市男女共同参画センター、株式会社エヌビィー健康研究所、遠友ファーマ株式会社（2024年3月現在）

## II. 2023年度取組

## 2023年度実施内容一覧

実施月日	実施内容
4月1日	【北海道大学】令和5年度前期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」開始
4月1日	【室蘭工業大学】令和5年度ライフイベント期にある研究者への支援開始(対象者2名)
4月1日	【帯広畜産大学】研究者9名に研究支援員の配置を決定
4月1日	【帯広畜産大学】助教1名採用、特任助教1名採用
4月1日	【北見工業大学】助教1名採用
4月10日	【北見工業大学】令和5年度ライフイベント期にある教員への研究補助人材支援開始(対象者2名)
4月25日	【北海道大学】DEIニュースレター3号発行
4月26日	【帯広畜産大学】女性限定公募(人間科学研究部門)開始
4月27日	【北海道大学】女子学生ロールモデル発信～大塚賞受賞者の声～公開(学生限定公開)
5月1日	【帯広畜産大学】教授1名昇任、特任助教1名採用
5月30日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.3「文学研究院 特任准教授 卓彦伶先生」発行
5月30日	【北見工業大学】第1回ダイバーシティ推進室会議開催
6月2日	【北海道大学】「ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた部局等による取組支援プログラム」募集開始
6月2日	【北海道大学】「PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援」募集開始
6月15日	【帯広畜産大学】女性限定公募(環境農学研究部門)開始
6月16日	【北海道大学】「PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援」決定・通知(1名)
6月19日	【北海道大学】「女性研究者リーダー育成共同研究助成」募集開始
6月29日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.4「国際広報メディア・観光学院 准教授大友瑠璃子先生」発行
7月4日	【帯広畜産大学】助教1名採用
7月6日	【室蘭工業大学】英語論文執筆セミナー「アクセプトへの第一歩!英語論文執筆のAtoZ」開催
7月7日	【北海道大学】「ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた部局等による取組支援プログラム」決定・通知(文学研究院、メディアコミュニケーション研究院、社会共創部広報課)
7月14日	【北見工業大学】次世代研究者のための講演会「私が大学教員になるまでのストーリー」開催
7月17日	【北海道大学】公開講座「レナード・バーンスタインの生きた世界と残したレガシー」開催(協力)
7月25日	【北海道大学】令和5年度後期「研究活動とライフイベント/女性リーダー活躍の両立のための補助人材支援」募集開始
7月25日	【北海道大学】DEIニュースレター4号発行
7月25日	【室蘭工業大学】女性限定公募(准教授1名)開始
7月29日	【北見工業大学】オープンキャンパス 女子学生が大学生活や研究の紹介等を行う「リケジョの輪」実施
7月31日	【北海道大学】「女性研究者リーダー育成共同研究助成」決定・通知(5名)
8月7日	令和5年度北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第1回業務担当者会議」開催(オンライン会議)

実施月日	実施内容
8月29日	【北見工業大学】ダイバーシティ推進に関する講演会「データから考える理工系進学とジェンダーギャップ」開催
8月30日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.5「薬学研究院 教授 小川美香子先生」発行
9月8日	【北海道大学】「上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業」募集開始
9月12日	【日東電工株式会社】全管理職を対象とした「ダイバーシティマネジメント～誰もが活躍できる職場 活躍させる上司」と題した講演会を実施
9月13日	【室蘭工業大学】ニュースレター「ダイバーシティ通信第18号」発行
9月16日	【帯広畜産大学】(一社)男女共同参画学協会連絡会ワークショップに1名がオンライン参加
9月19日	【北海道大学】「積極的なアウトリーチ活動に向けたビジュアル作成コンサルティング支援」募集開始
9月21日	【室蘭工業大学】ライフイベント期のシッター代の補助(対象者1名)
9月27日	【帯広畜産大学】女性限定公募(環境農学研究部門)開始
9月29日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.6「獣医学研究院 助教 矢野沙織先生」発行
10月1日	【北海道大学】令和5年度後期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」開始
10月1日	【帯広畜産大学】研究者9名に研究支援員の配置を決定
10月1日	【帯広畜産大学】准教授1名採用、特任助教1名採用
10月1日	【北見工業大学】助教1名採用
10月11日	【北海道大学】第9回北大・部局横断シンポジウム「DEIセッション」開催
10月13日	【北海道大学】部局等による取組支援「バイスタンダー・トレーニングを用いたダイバーシティ推進に関する文学研究院・文学院FD」(文学研究院)開催
10月20日	【帯広畜産大学】女性限定公募(獣医学研究部門)開始
10月25日	【北海道大学】DEIニュースレター5号発行
10月27日	【北海道大学】部局等による取組支援「何から始める?多様性に配慮した情報発信」(社会共創部広報課)開催
10月27日	【北海道大学】PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援「鳥と人の共生を考える生物音響学若手研究者セッション」(理学研究院)開催
10月30日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.7「水産科学研究院 准教授 笠井久会先生」発行
11月7日	【北海道大学】ドキュメンタリー映画CURED に学ぶ(在札幌米国総領事館共催)開催
11月14日	【室蘭工業大学】キャリア形成のためのランチタイムセミナー第18回「遠い昔に私がリケジョとなったわけ」開催
11月14日	【帯広畜産大学】女性限定公募(獣医学研究部門)開始
11月15日	【室蘭工業大学】教職員のためのダイバーシティセミナー2023「NGOにおける次世代女性への応援事業ー大学女性協会の活動を例として」開催
11月27日	令和5年度北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第2回業務担当者会議」開催(オンライン会議)
11月29日	【北見工業大学】令和6年度ライフイベント期にある教員への支援希望者募集開始
11月30日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.8「医学研究院 医員 福津佳苗先生」発行

実施月日	実施内容
12月1日	【北海道大学】「積極的なアウトリーチ活動に向けたビジュアル作成コンサルティング支援」決定・通知(2名)
12月4日 1月17日 2月7日	全3回シリーズ「PIを目指す女性研究者のための“Leadership Acceleration Program for Women in Academia; Increase your influence!”」開催
12月7日	【北海道大学】部局等による取組支援「笑って考えるジェンダー・多様性・マイノリティ ー持続可能な大学と研究生生活に向けてー」(大学院メディア・コミュニケーション研究院)開催
12月7日	【北海道大学】学生+教職員向け講演会「成人期の自閉スペクトラム症を考える～当事者の困り事から周囲の人ができるサポートまで」(学生相談総合センター、高等教育研修センター共催)開催
12月14日	【日東電工株式会社】一般従業員を対象とした「仕事も私生活も、よくぼうろ!～時間泥棒を逮捕せよ～」と題した講演会を実施
12月20日	【帯広畜産大学】女性限定公募(原虫病研究センター)開始
12月22日	【帯広畜産大学】女性限定公募(環境農学研究部門)開始
12月27日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.9「学生相談総合センター 講師 鈴木育美先生」発行
1月11日	【北見工業大学】役員等と女性研究者の懇談会開催
1月16日	【室蘭工業大学】キャリア形成のためのランチタイムセミナー第19回「キャリアは選ぶのか?選ばれるのか?それとも…」開催
1月19日	【北見工業大学】学部女子学生と大学院女子学生との懇談会開催
2月16日	【帯広畜産大学】女性限定公募(獣医学研究部門)開始
2月26日	【帯広畜産大学】女性限定公募(生命・食料科学研究部門)開始
3月1日	【帯広畜産大学】准教授1名採用
3月13日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議(KNIT 会議)およびKNIT 勉強会 オンライン開催
3月14日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.10「保健科学院 博士後期課程 安田佳永さん」発行
3月14日	【室蘭工業大学】ニュースレター「ダイバーシティ通信第19号」発行
3月19日	【北海道大学】北海道大学大塚賞交流会開催
3月27日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.11「工学研究院 教授 伊藤真由美先生」発行
	【北海道大学】令和5年度前期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」にて計23名の研究者に補助人材(研究支援員)を配置
	【北海道大学】令和5年度後期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」にて計19名の研究者に補助人材(研究支援員)を配置
	【北海道大学】令和5年度科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)に採択
	【日東電工株式会社】女性リーダー育成プログラム(FLOWERプログラム)を係長級の女性(25名)を対象に実施。マインドセットとビジネススキルの両面から支援するメニューとなっている。

# ダイバーシティ研究環境整備のための取組

## 連携機関全体の取組

### 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 業務担当者会議の実施

業務担当者会議は、各連携機関の担当教員等が事業企画・実施のための情報共有や検討をする等のコミュニケーションを目的としている。6か月に1回の頻度で、緊密な情報交換を連携機関全体で実施してきた。北海道の各地域に拠点を構える連携機関のダイバーシティに関する状況や取組を互いに知ることができ、KNIT全体の研究環境の向上につながっている。

2023年度は以下の通り、2回の業務担当者会議を実施した（オンライン開催、2024年3月現在）。

#### < 開催記録 >

実施日	議題
8月7日	<ul style="list-style-type: none"><li>・2023年度各機関取組実施計画の共有</li><li>・連携する取組について</li><li>・KNIT勉強会について</li><li>・KNITウェブサイトでの掲載・共有について</li><li>・各機関からの取組実施状況の共有</li></ul>
11月27日	<ul style="list-style-type: none"><li>・2023年度各機関取組実施状況及び今後の予定について</li><li>・KNIT会議、KNIT勉強会について</li><li>・2023年度KNIT活動報告書の作成について</li></ul>

### 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（KNIT会議）およびKNIT勉強会の実施

#### KNIT会議

- 日時 2024年3月13日 16:00
- 場所 オンライン Zoom
- 審議事項 令和6年度事業計画について

#### 1. ダイバーシティ研究環境整備のための取組

- ・業務担当者会議の実施
- ・セミナー等相互配信
- ・KNIT会議の実施

#### 2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成および上位職への積極登用に向けた取組

- ・KNIT勉強会の開催

審議結果：令和6年度事業計画について、提案どおり承認することとした。

## KNIT 勉強会

- 日時 2024年3月13日 16:30
- 場所 オンライン Zoom
- 講師 山口 淳二 北海道大学 理事・副学長  
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部 本部長
- テーマ Accelerate Ambitions of All  
～女性研究者 Confident to be Ambitious 支援と開花へ～

## 活動報告

女性研究者の上位職・管理職への登用促進に向けた組織の取組に関する道内の大学における好事例を学ぶ機会として、勉強会を実施した。北海道大学山口淳二理事・副学長を講師とし、北海道大学における「加速アクションプラン」等の取組についての発表と質疑応答が行われた。KNIT 会議委員及び業務担当者等 17 名が参加した。



# 北海道大学

令和5年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」

## Accelerate Ambitions of All

～女性研究者“Confident to be Ambitious” 支援と開花へ～

2024.3.13 KNIT勉強会

**国立大学法人北海道大学**  
理事・副学長  
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部 本部長  
山口 淳二







## 令和5年度「研究活動とライフイベント / 女性リーダー活躍の両立のための補助人材支援」

本支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し、円滑に業務を遂行できるよう、「研究人材の雇用経費助成」により研究者の補助を行う人材を支援するものである。

また、大学の管理運営や社会貢献等、学内外の要職に就く女性研究者に対し、女性リーダーとして活躍できるよう、同様の支援を今期試行した。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/sup-program/wl-support/kenkyujojo/>

### 支援採択件数

#### 前期

- ライフイベント支援 23件

#### 後期

- ライフイベント支援 18件
- 女性リーダー活躍支援 1件

## ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた 部局等による取組支援プログラム

本プログラムは、本学構成員（教職員・学生）が、ダイバーシティ推進について更に理解を深める機会を創出することを目的とし、学内で開催される DEI に関するセミナー等の実施について支援するものである。2023 年は 3 件の支援を行った。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22298/>

### <支援実績 (1)>

- 名称 文学研究院「バイスタンダー・トレーニングを用いたダイバーシティ推進に関する FD」
- 日時 2023 年 10 月 13 日 13:00～14:00
- 対象者 文学研究院に所属する教職員の他、アイヌ・先住民研究センター、社会科学実験研究センター、人間知・脳・AI 研究教育センター及び文学事務部に所属する教職員、並びに上記以外の文学院参画教員（文学院教授会構成員）
- 場所 オンライン Zoom
- 参加者数 81 名
- 講師 濱田 真里 氏（一般社団法人ジェンダー総合研究所：共同代表）  
安藤 真由美 氏（同上）
- 実施主体 大学院文学研究院

### 実施報告書より抜粋

事前動画視聴、講演、ロールプレイを組み合わせた実践的なプログラム構成の一般社団法人ジェンダー総合研究所によるバイスタンダー・トレーニングを実施することにより、教職員へ差別やハラスメントに関する知識を持つことの重要性、問題が発生した際に第三者が介入することの意義・心構え等に関する知識を習得する機会を提供することができた。

本 FD 研修は文学研究院の教員全員参加型 FD として文学研究院教員の約 70%が受講しただけでなく、文学院参加部局であるアイヌ・先住民研究センターのほか、人間知・脳・AI 研究教育センター及び社会科学実験研究センターの教職員も対象に広く実施したことにより、多くの教職員に対するバイスタンダーの要素を含むダイバーシティ・インクルージョン推進等についての実践的な啓発・研修となった。

もしバイスタンダーとして行動できたなら…	
後悔しなくなる	「あの時もし……」という後悔がなくなる。
自分が好きになる	困っている誰かのためにとった言動が、自分自身への信頼や効力感、肯定感などにつながる。
社会が変わり始める	加害者が加害の事実気づいたり、被害者が更なる被害から抜け出したりするための支援につながる。加害を許さない社会への一歩となる。



ジェンダー総合研究所 | © 2023

### <支援実績(2)>

- 名称 何から始める?多様性に配慮した情報発信
- 日時 2023年10月27日 15:00～16:30
- 対象者 全学の教職員
- 場所 会場・オンラインのハイブリッド  
対面会場：北海道大学百年記念会館 大会議室
- 参加者数 約70名
- 講師 小坂佳子氏（読売新聞生活部長）
- 共催 広報・社会連携本部 広報・コミュニケーション部門  
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部  
社会共創部広報課



### 実施報告書より

教職員を対象とした今回のセミナーは、包括連携協定先である読売新聞東京本社北海道支社から紹介いただいた読売新聞生活部長の小坂佳子氏を講師に迎えて開催した。

女性の社会進出なども扱うことの多い「くらし・家庭」面を担当する小坂氏からは、なぜ今、多様性に配慮した情報発信が必要なのか、そのために何から始めたらいいのか、文章や写真など媒体における表現についての留意点やもう少し広い意味での情報発信について、自身の記者として、また管理職としての経験を交え、具体例を挙げながら説明いただいた。

当日は、対面・Zoomのハイブリッド形式で開催し、約70名が参加した。参加者からは、「事例がたくさんあってとてもわかりやすかった」「日々、情報のアップデートが必要だと感じた」といった声が聞かれ、本学が進める多様な人々との共存と共生を基盤とし、無意識の差別や偏見を乗り越えたバイアスフリーキャンパスの実現のための意識醸成に寄与したものとする。



### <支援実績 (3) >

- 名称 笑って考えるジェンダー・多様性・マイノリティ  
—持続可能な大学と研究生生活に向けて—  
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 FD 研修
- 日時 2023年12月7日 16:30～18:00
- 対象者 全学の教職員・学生
- 場所 会場・オンラインのハイブリッド  
対面会場：北海道大学高等教育推進機構1階 N1 講義室
- 参加者数 約80名
- 講師 瀬地山 角 東京大学大学院総合文化研究科教授
- 主催 メディア・コミュニケーション研究院 研究成果公開委員会
- 共催 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

### 実施報告書より

本講演においては、一人一人が持つアンコンシャスバイアスについて意識的に内省し、意思決定者の構成に生じている偏りを批判的に検討するといった教育・研究現場における留意点が示されるとともに、大学進学前に既に存在している性差別、出産・育児期の研究業績の減少と業績評価への長期的な影響、また、学内でなお散見される「Boys, be ambitious!」をめぐる議論の必要性といった、持続可能な開発目標（SDGs）の根幹にも関わる問題点が提起された。参加した教職員からも、これらの課題に改めて気づかされた、といった意見や家族と共有したい、といった感想が寄せられた。このように、とりわけ研究・教育現場における啓発と意識改革という意味において、本学の DEI 推進に寄与する成果を得た。



**瀬地山 角**  
(東京大学教授)  
公開講演会

1963年鹿児島生まれ。東京大学文学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（学術博士）、北海道大学文学部助教授、東京大学教養学部教員として2019年より北海道大学大学院総合文化研究科教授。著作数冊に「路上CMでみるくごじゅんご」(筑摩書院)、「若いジェンダー論」(『東アジアの家父长制』)、「ジェンダーとエンターテインメント」(『若い東アジア』(しずれも書房))、「男、女の政治」(共著、東京大学出版会)などがある。

**笑って考える  
ジェンダー・多様性・  
マイノリティ**

—持続可能な大学と研究生生活に向けて—

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院FD研修

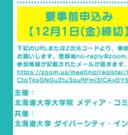
2023年12月7日(土)

時間：16:30～18:00

高等教育推進機構1階 N1講義室+オンライン

要事前申込み  
【12月1日(金)締切】

YR@u.ac.jpまたはお申込みの、事務局までご連絡ください。お申し込みいただいたメールアドレスが帰ります。  
https://220206.u-hokudai.ac.jp/2023/12/07/cha/20230620u20230620RFMC/CA002306



講演者プロフィール  
10年前以上の学長の経験の経験を一歩引いた、学でもみんなの学長経験を語ることにジェンダー論の執筆、学長に就任し、公学家としての経験をした。日本テレビ「世界一受けが早い質問」の常務委員としてのアンチ学長としての経験も1に選ばれた。ジェンダー論の執筆経験も50人以上にわたる。NPO法人の理事として学長としての経験もしている。

主催  
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 研究成果公開委員会

共催  
北海道大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

**RFMC**  
Research Faculty of Media and Communication

## 公開講座「レナード・バーンスタインの生きた世界と残したレガシー」

- 名称 レナード・バーンスタインの生きた世界と残したレガシー  
第一部「PMF にみる世界と芸術」・第二部「LGBTQ フレンドリーなまちづくり」  
(北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部：第二部協力)
- 日時 2023年7月17日 13:00～16:00
- 場所 北海道大学高等教育推進機構大講堂
- 参加人数 188名
- 主催 せなは科研費プロジェクト
- 共同企画 第一部：(公財)PMF組織委員会  
第二部：北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

音楽家レナード・バーンスタインが1990年に創設したパシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) は、世界三大教育音楽祭の一つとして現在も発展を続けている。

7月17日(月・祝)に開催した公開講座(DEI推進本部は第二部に協力)では、バーンスタインがその生涯を通して訴え続けた社会正義や世界平和を踏まえ、登壇者の体験や海外の事例紹介等を交えながら、性の多様性や平等性への理解について考え学ぶ機会とした。



せなは科研費プロジェクト公開企画  
レニー×PMF×LCETC  
I Sapporo

### レナード・バーンスタインの生きた世界と残したレガシー

20世紀を代表する巨匠レナード・バーンスタインが創設したパシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) は、世界中の教育音楽祭の頂点であり、世界三大教育音楽祭の一つとして発展を続けています。

バーンスタインの生涯と芸術、残した世界に於けるPMFの活動と文化に迫る講演と、平等性を具に築き上げた活動や、国際音楽家や音楽家としてのバーンスタインの考えや、後進に伝えたことがわかるのありとあり。

第一部「PMF にみる世界と芸術」  
13:00  
登壇者：  
橋本 裕 指揮、北日本音楽協会吹奏楽部  
林田直樹 指揮、北日本音楽協会吹奏楽部  
宮原 真里 指揮、北日本音楽協会吹奏楽部

第二部「LGBTQフレンドリーなまちづくり」  
14:45  
登壇者：  
高橋 てる子 札幌市LGBTQ+友好活動推進委員会  
橋本 裕 指揮、北日本音楽協会吹奏楽部

イベント詳細はウェブサイトまたはチラシにて  
<https://tiny.cc/mugm7f17> (How to Code)  
メール: [sena@research.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:sena@research.s.u-tokyo.ac.jp)

会場：北海道大学 高等教育推進機構大講堂  
札幌市中央区南一条西五丁目  
※ 本学構内・自費で入場することができます。高橋・橋本・宮原は当日受付、当日入場券は当日受付のみです。  
※ 当日は入場券を提示してください。

主催：せなは科研費プロジェクト  
協賛：北海道大学高等教育推進機構  
共同主催：北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部  
共同主催：(公財)PMF組織委員会  
共同主催：北海道大学  
共同主催：レナード・バーンスタイン財団

7.17 (月・祝)  
13:00-16:00  
開場 12:00  
参加無料・申込不要  
定員188名(先着順)です  
お問い合わせ: [sena@research.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:sena@research.s.u-tokyo.ac.jp)

## ドキュメンタリー映画 CURED に学ぶ

- 日時 2023年11月7日
- 場所 オンライン Zoom
- 参加者数 61名
- 共催 在札幌米国総領事館  
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

## 活動内容・報告

『CURED』の上映会（無料）と、医療／メンタルヘルス関連問題を含む日本のLGBTQIの権利に関するディスカッションで構成された。

日米のLGBTQ文化に詳しいジャーナリストの北丸雄二氏をファシリテーター兼コメンテーターに迎え、映画の感想、日米のLGBTQコミュニティ、文化や市民権運動の比較などを分かりやすく解説いただいた。また、ゲストコメンテーターとして、トランスジェンダーであることを公表している北海道議会議員 瀧上綾子氏と北海道の同性婚訴訟の弁護を担当する弁護士 須田布美子氏にもご参加いただき、日本の現状や課題に関する解説をいただき、大変有意義なプログラムとなった。



## 「障害者週間」に関するイベント

障害者基本法に基づき、毎年12月3日から9日までの期間は「障害者週間」と定められている。

内閣府のWebページ <https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/r05shukan/main.html>

北海道大学では、今年度、札幌市に協力して就労支援施設で作られた製品の販売場所の提供と、高等教育研修センター主催にて、障害についての知識を深めるための、学生・教職員向けの講演会を行った。

また、元気ショップいこ〜るの横で、北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言文と、DEI推進本部の紹介をした。

### 元気ショップいこ〜る出展

- 日時 12月3日・12月9日 2日間
- 場所 北海道大学総合博物館 1階講義室知の交差点



### 学生 + 教職員向け講演会

- 名称 学生 + 教職員向け講演会 成人期の自閉スペクトラム症を考える～当事者の困り事から周囲の人ができるサポートまで
- 日時 2023年12月7日 13:00～14:30
- 対象者 全学の教職員・学生
- 会場 北海道大学情報教育館3階スタジオ型研修室・オンラインのハイブリッド
- 参加者数 133名
- 講師 佐藤徹男氏（学生相談総合センター留学生相談室 副室長 / 准教授）
- 主催 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
- 共催 学生相談総合センター、高等教育研修センター

**学生+教職員向け無料講演会**  
北大生ならどなたでも参加できます！

**成人期の自閉スペクトラム症を考える**  
～当事者の困り事から  
周囲の人ができるサポートまで

発達障害や発達傾向という言葉はよく耳にすると思いますが、発達障害が疑われるよう本人が身近にいることはとても多いと感じます。発達障害は幼少期に診断されることが多いですが、大学生や大人になり環境が変わったことで、困難さが顕著化し診断を受けることもあります。特に自閉スペクトラム症（ASD）についての社会的理解はまだ不足しています。当事者の困りごとのみならず、周囲の人も対応に苦慮してしまうことが数見されます。

本講演会では、発達障害の正式な診断名である神経発達症の種類や特徴について簡単に説明した後に、成人期におけるASDのある方の困りごとや特性について解説します。ASDに関しては、当事者のニーズやニーズの異質性、個々の能力による困難感を受けることが重要と書かれています。またASDの二次的な症状に苦しむ方も多くいます。この講演会を通して、神経発達症、特にASDの症状に関する理解を深める同時に、当事者や周りの大学生や教職員がサポートについて学び、障害があるなしに関わらず、全ての人が過ごしやすい環境になってくれることを目指します。

**【日時】 令和5年12月7日（木）13:00～14:30**

対象：高等教育機関に所属する教職員、北海道大学の学部生及び大学院生  
定員：対面20名、オンライン400名  
講師担当：佐藤 徹男  
（学生相談総合センター留学生相談室 副室長 准教授）  
実施方法：情報教育館3階スタジオ型研修室にて対面、及びオンラインライブ配信  
演題：「成人期の自閉スペクトラム症を考える ～当事者の困りごとから周囲の人ができるサポートまで」

参加申込  
主催：ダイバーシティ・インクルージョン推進本部  
共催：学生相談総合センター、高等教育研修センター  
<https://st.hqsh.bokudai.ac.jp/sec/2023/12/07/>  
オンライン参加URL等はお申し込み後に  
ご提供いたします。

### 活動内容・報告

「障害者週間」にあわせ、本学の教職員および学生を対象に、障害に対する理解醸成を目的とした講演会を実施した。本講演会では、発達障害の正式な診断名である神経発達症の種類や特徴について簡単に説明した後、成人期におけるASDのある方の困りごとや特性について解説した。この講演会を通して、神経発達症、特にASDの症状に関する理解を深め、当事者だけでなく周りの学生や教職員がサポートについて学ぶとともに、障害のあるなしに関わらず、全ての人が過ごしやすい環境となることを目指している。

## 大学入学共通テスト時の一時保育支援

本支援は、本学が2021年12月に公表した「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」に則り、様々な状況にある教職員が働くための研究環境整備として実施している。大学入学試験関連業務により本学の教職員が休日出勤を行う場合の保育負担を軽減し、教職員が能力を発揮しやすい環境を整備することを目的としている。

2023年度は5名の教職員（男性2名、女性3名）が利用し、6名（1歳児2名、2歳児1名、4歳児1名、6歳児2名）の保育を行った。

※人数は延べ人数

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/23104/>

- 日時 2024年1月13日、1月14日、2月25日  
7:30～19:00のうち希望する時間
- 対象者 大学入学試験当日業務に携わる本学の教職員が養育する未就学児（生後6か月以上）
- 保育場所 北海道大学病院保育園 ポプラ（函館キャンパスについては応相談）

# 室蘭工業大学の取組

## ライフイベント期の研究者への研究支援員配置

出産・育児・介護等のライフイベント期の女性研究者に対し、研究活動の補助を行う支援員を配置することにより、ライフイベント期にある研究者が研究活動を継続することができる環境を整備し、女性研究者の研究力向上を図っている。

2023年度は、育児や介護を行っている女性教員2名に対して支援を行った結果、2名とも科学研究費助成事業への応募が採択され、うち1名が研究センターの長に任命される等の成果が上がった。

### ● 令和5年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

#### 令和5年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

- 1. 目的**  
本学における教員及び博士研究員がライフイベント期（妊娠・育児・介護等）と研究活動を両立することができるよう、支援員の雇用に係る経費の助成を行う。
- 2. 応募資格**  
本学の教員及び博士研究員のうち、妊娠・育児（小学校6年生以下）又は介護等に当たっている者。要介護等ではないパートナーと同居している場合は、原則としてパートナーの勤務時間が週35時間以上であること。
- 3. 助成内容**  
対象者に対し、支援員を雇用する経費を助成します。雇用できる期間は、令和5年4月上旬から令和6年3月31日までの間の必要期間・必要時間とします。また、雇用できる支援員は学術研究員、技術補佐員又は事務補佐員としますが、必要であれば臨時補助員や派遣会社の利用も可能です。詳しくは男女共同参画推進室までご相談ください。
- 4. 申請手続**  
申請書「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」に記載し、男女共同参画推進室に提出してください。
- 5. 採択**  
多数の応募があった場合には、対象者の職位や必要状況等を加味した上で、男女共同参画推進室で総合的に審査の上、採否を決定します。
- 6. 支援員の採用**  
支援員の選定にあたっては男女共同参画推進室から情報提供できる場合もありますが、原則として申請者が行うこととします。
- 7. 報告書の提出**  
本支援を受けた研究者には、報告会の参加と報告書の提出をお願いすることがあります。
- 8. 問い合わせ先**  
室蘭工業大学男女共同参画推進室（総務広報課労務管理係：内線5018）  
E-mail: [ufr@num.muroran-it.ac.jp](mailto:ufr@num.muroran-it.ac.jp)

ニュースレター「ダイバーシティ通信」

本学の取り組みについてニュースレターを発行し、北海道地域の大学や高等学校を中心として情報発信を行うとともに、本学が開催する講演会について連携機関等に周知を行うことにより相互参加を図っている。また、令和2年度より女子高校生に本学の教育・研究をより具体的に知ってもらうことを通じて女性研究者の裾野拡大を図ることを目的として、本学女子学生へのインタビュー記事を掲載している。

●ダイバーシティ通信第18号(2023年9月発行)

第18号 2023年9月

# ダイバーシティ通信

## 女子学生インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと学生生活を送る女子学生たちにインタビュー！進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話をいただきました。将来の目標に向けて前向きに学びを促す「理工系で面白そう!」「【私をやってみたい!】と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

### 室工大を希望した理由

私は、小さい頃から工作・職種などのモノづくりに興味がありました。高校2年生の時に、何をしたいか考えたとき、総合大学よりも工業大学の方が専門的な知識を習得でき、自分に合っているのではないかと考えて、室蘭工業大学を希望しました。室蘭工業大学入塾後は、設計など、ものづくりのイメージが強い機械ロボット工学コースに進み、現在は精密メカトロシステム研究室で研究を進めています。

昔から、おもちゃの製作や人に何かを教えること、特に子供に教えることがとても好きでした。大学1年生からは、それを実践できるロボットアリーナでアルバイトをしています。また、学部時代は教員免許 高校(工業)も取得しています。大学生活、とても充実した日々を送っています。

### インフラストラクチャーに活用できるロボットの開発

現在、私はインフラストラクチャー、例えばトンネルや橋梁などの維持・管理技術の開発として、壁面を移動できる多

### 女子高校生へのメッセージ

先にも述べましたが、室蘭工業大学では、モノづくりを行いたいと思った時に、ロボットアリーナ、Cremaなどの施設・設備や、気軽に相談し合える先生が身近に存在し、フレットホームな環

境下で、それを実践できる点が強みだと思います。女子学生の数は少ないですが、皆さんその分野に興味を持って入学しているので気が合いますし、学生生活を楽しくしながら過ごしていると思います。今後は、おもちゃなどを制作する企業や教育系のものづくりの企業への就職を視野に、さらに大学院の生活を楽しみたいと思います。

早くから工作機械に触れることができる環境・施設が整っているのが本学の魅力



大学院工学研究科博士前期課程  
生産システム工学専攻  
機械ロボット工学コース1年  
土門 愛さん

### 【キャリア形成のためのランチャイムセミナー 第17回】

「『ロールモデル』にとらわれない働き方と研究のすすめ」

講師：橋本 綾佳氏 (福田地産建設株式会社 主任) 日 時：令和5年2月21日(火) 12:00~12:45  
場 所：室蘭工業大学 教育 研究1号館 A317教室 対 象：本学の学部学生・大学院生 他

令和5年2月21日(火)に「キャリア形成のためのランチャイムセミナー 第17回」を開催しました。講師の橋本 綾佳氏より大学院在学中の研究活動や就職活動を経て就職に至るまでの経緯、そして現在社会人ドクターとしての立場での学生連との向き合い方や女性が企業で働く上での課題についてお話いただきました。仕事を学ぶ上で困っていることや自分自身にしかない唯一無二のスキルを磨くことの大切さについて語られ、「ロールモデル」とはならず、自分らしさを持っていくべき仕事はいつでもある。」との励ましのメッセージもいただきました。

当日は50名の参加があり、参加者からは「結婚・出産と仕事の両立のリアルな問題やハードルの高さを改めて知りました。」「女性であるための仕事や研究で苦労したことをもっと詳しく聞きたいと思いました。」などの感想が寄せられ、今後のキャリアプランを考える上で有意義なひとときとなりました。



### 【附属図書館共催 英語論文セミナー】

「アクセプトへの第一歩! 英語論文執筆のA to Z: 英文校正のプロが具体的な注意点を解説」

講 師：サザンクロス株式会社 代表 Garry Henrick 氏  
日 時：令和5年7月6日(木)【日本語編】13:30~15:00 【英語編】15:30~17:00  
開催方法：オンライン(Zoom) 対 象：若手研究者、大学院生 共 催：附属図書館

附属図書館と共同で開催する、英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩! 英語論文執筆のA to Z: 英文校正のプロが具体的な注意点を解説」を令和5年7月6日(木)オンラインにて開催し、日本語編は11名、英語編は4名が参加しました。

講師はサザンクロス株式会社よりGarry Henrick 氏(代表)をお迎えし、英語論文を執筆する上での重要なポイントや注意点を、昨年共同開催した日本語編に引き続きお話しいただきました。

アンケートでは、「満足」もしくは「ほぼ満足」と答えた回答者が100%であり、「理解しやすい内容だった」「一般的な論文執筆のアイデアに加えて、最新の動向が盛り込まれていた」などの感想が寄せられました。



### 【令和4年度女性活躍推進セミナー】

講 師：村木 厚子氏 (室蘭工業大学教員、伊藤忠商事(株)社外取締役、住友化学(株)社外取締役、元厚生労働省事務次官)  
日 時：令和5年1月10日(火) 13:30~15:00  
場 所：室工大サテライト会場 主 催：北海道庁

講師講演：「あらためて女性活躍の意味を考える」

講師との意見交換：「女性の活躍が組織にもたらす価値」

令和5年1月10日、北海道庁主催の令和4年度女性活躍推進セミナーが開催され、本学からは本学サテライト会場(本館3階大会議室)並びにオンライン会議室で教員職員計4名が参加しました。

基調講演では元厚生労働省事務次官の村木氏より「令和の時代は前向きな改革」とし、働き手を増やすためには、女性だけでなく、男性の労働環境の整備等の働き方改革の必要性について語られました。また、講演後の意見交換では、本学の働き方研究共同推進推進委員 副委員長がパネリストとして出席し、「女性の活躍が組織にもたらす価値」をテーマに女性活躍に関する課題や取組について意見交換を行いました。女性が企業で活躍するためには、アンコンプライアンス(就業上の悩み)を取り除くことが、当事者の声に耳を傾け、性別を問わず利用可能な仕組みや制度作りの重要性について示唆されました。

ダイバーシティ通信 第18号(2023年9月)  
国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット (LIFR)  
〒045-8505 北海道室蘭市本町1-9-1 TEL: 0142-46-2013 FAX: 0142-46-2022  
E-mail: lifr@ipc.ri.uis.ac.jp URL: https://u.muroran.ac.jp/eng/

本誌および本学の男女共同参画等に関するご意見・ご要望をLIFRまでぜひお寄せください。

女性研究者支援ユニット  
Unit for Female Researchers

●ダイバーシティ通信第19号(2024年3月発行)

# ダイバーシティ通信

女子学生インタビュー

**室蘭工大を志望した理由**

私が室蘭工大を志望した理由は主に3つあります。1つは、コンピュータ科学と他の分野を融合する研究を行いたいからです。室蘭工大は、コンピュータ科学の力を最大限に活かせる先進的な研究環境が整っていて、そこに魅力を感じました。2つ目の理由は、太田先生との存在です。太田先生は、私の理想とする女性研究者です。そして、単独研究者として認められていて、工学の教員として活躍されています。現在は、太田研究室に所属していますが、私の研究活動の活力となる存在で、研究キャリア形成において、たくさんのことが勉強できる環境だと思っています。3つ目の理由は、室蘭工大が、北海道という美しい地域の中に位置することです。私は、雪の景色が大好きなので、北海道で雪の景色が見られることがとても嬉しいです。豊かな自然によってリフレッシュして、精神のバランスをとることができ、研究の新しいアイデアにも繋がっています。実際に、冬のせせこや豊良貝、知床に行ったことがあるのですが、鳥の鳴き声が聞こえる雪一面の森林の風景は絶景でした。

**AIの重要性と自身の研究活動**

私は北海道大学の農学院出身で、環境に関する研究に取り組みしてきました。しかし、研究を進めていくうちに、コンピュータ科学の重要性に気づき、世の中の傾向として、コンピュータ科学を生かした研究が流行っているように感じています。室蘭工大では、AI分野に専攻を置き、現在ではAIモデルの開発、特にコンピュータ科学と脳神経科学の融合の研究をしています。AIは汎用性が強いので、たくさんのお話を勉強する必要があります。さらに、私にとっては始める必要のない分野なので、ストレスを感じることもたくさんあります。ただ、太田研究室の先生や同僚の方達が、研究面だけでなく、精神面においても優しく接してくれるので、とても感謝しています。研究室のメンバーの知識幅が広いので、たくさんのお話を聞くこともとても満足しています。また、将来は研究者になって、社会における様々な課題を見つけ、技術を実用化することが目標です。技術の発展によって、データがたくさん集まっている時代なので、そのデータを活用するコンピュータ科学の技術を提供することは、社会の中でも重要な役割だと思います。



博士後期課程  
工学専攻  
先端情報電子工学コース1年  
 除 絵 さん

**女子中高生へのメッセージ**

室蘭工大の研究環境は本当に先進的で、たくさんのお話を学べます。また、日本は、女性研究者の育成、就職サポートや雇用面で、女性研究者に優しい環境が整っているように感じます。女子中高生には、将来的にこのような環境を活かして、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。





— 本学では理想とする女性研究者や幅広い知識のメンバーのもと、たくさんのお話を学べます

## ■ 教職員のためのダイバーシティセミナー2023 ■

【NGOにおける次世代女性への応援事業—大女性性協会の活動を例として】

講 師：岩村 選手 氏 (大女性性協会 会長)  
日 時：令和5年11月15日 (水) 13:30~15:00  
場 所：Zoomによるオンラインセミナー  
対 象：本学の学生、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員  
その他ダイバーシティに関心のある方

令和5年11月15日(水)、教職員のためのダイバーシティセミナー2023をオンライン開催しました。この講演会は、本学の教職員を主な対象に男女共同参画推進の意識啓発を目的として、年1回開催しています。本年度は、講師に大女性性協会会長 岩村 選手 氏をお招きし、【NGOにおける次世代女性への応援事業—大女性性協会の活動を例として】と題して、大女性性協会 (JAUW) の各賞・奨学金事業をご紹介いただいたとともに、女性研究者の活躍の場についてご講演いただきました。当日は25名の参加があり、参加者からは「女性活躍の状況が分かり、励みになった」「大女性性協会の活動を知ることができました。また、講演後の質疑でも多岐に渡るお話を頂き、参考になりました。」などの感想が寄せられました。



---

## ■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第18回 ■

【遠い昔に私がリケジョとなったわけ】

講 師：岩村 選手 氏 (大女性性協会 会長)  
日 時：令和5年11月14日 (火) 12:10~12:50  
場 所：Zoomによるオンラインセミナー  
対 象：本学の学部学生・大学院生

今よりも女性のロールモデルが少なかった時代に理系研究者の道へ進んだきっかけや就職の際にぶつかったジェンダーの壁、また退職後の大女性性協会の活動についてお話をいただきました。当日は14名の参加があり、参加者からは「元リケジョとしてのお話に聞いたお話は違いました。」「まだ女性研究者があまり活躍していない時代から研究者として活躍してこられた先生のお話が聞けて良かったです。」などの感想が寄せられ、好評のうちに終了しました。



---

## ■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第19回 ■

【キャリアは選ぶのか? 選ばれるのか? それとも...】

講 師：岩村 穂代 氏 (株式会社サイバコ CEO)  
日 時：令和5年11月16日 (水) 12:10~12:50  
場 所：室蘭工大工学教育・研究1号館 A317室  
対 象：本学の学部学生・大学院生

当初目指していたものと全く異なるキャリアを築き上げ、行く先々で新しい分野を学び続けたことで、現在の会社を設立するに至るまでをお話いただきました。当日は18名の参加があり、参加者からは「将来を考えると人生の選択はいろいろあったら場所を選べることで様々な世界が広がるんだと思う」「色々な働き方があるんだと感じた。大学で学んだことに関する仕事に必ずしもつなぐわけではないんだと改めて思った」などの感想が寄せられ、今後のキャリア形成を考える機会となりました。



**ダイバーシティ通信 第19号 (2024年3月)**  
国立大学法人 室蘭工大 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット (UFR)  
〒050-8585 北海道室蘭市元町1番1号 TEL: 0143-46-5019 / FAX: 0143-46-5022  
E-mail: ufr@muroran-n.ac.jp URL: https://uamuroran-n.ac.jp/ufu/

本誌の発行は関係機関を委託して行なわれる個人・企業からのご寄付を要しております。  
詳しくは下記URLをご覧ください。  
https://uamuroran-n.ac.jp/ufu/ufu.html  
印刷・製本は印刷局にて行なわれ、印刷・製本は行なわれます。

本誌および本学の男女共同参画推進室に関するご意見・ご要望もUFRまでお問い合わせください。

室蘭工大男女共同参画推進室  
**女性研究者支援ユニット**  
Unit for Female Researchers

## 北見工業大学の取組

### ダイバーシティ推進に関する講演会

学内の意識改革を図ることを目的とし、ダイバーシティ推進や男女共同参画推進に係るFD講演会を実施した。

- 名称      ダイバーシティ推進に関する講演会「データから考える理工系進学とジェンダーギャップ」
- 日時      2023年8月29日 15:00～16:30
- 対象者    北見工業大学教職員等
- 場所      北見工業大学 B211 講義室
- 参加者数 64名
- 講師      金沢大学人間社会研究域地域創造学系 准教授 一方井 祐子 氏
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室

### 活動内容・報告

令和元年度から毎年実施しており、今年で第5回目となる講演会を対面で開催した。

講師の一方井 祐子氏から、専門分野ごとの企業ニーズや工学に対するジェンダーイメージなど様々なデータを基に、進学等への影響、各国と比較した日本の現状等について紹介された。

親の思い込み（バイアス）や周囲の友人の傾向が進路に影響を及ぼすことがある、中学生の時点で理数系科目が嫌いになる女子学生が多い、等のデータが示されたことから、講演後のアンケートでは「女子の入学者を増やすには小・中学校からのアプローチが必要だと理解した」「理数系科目を教える教員側も改革が必要だと思った」等、理数系科目について早い段階からのアピールが必要との声が多く寄せられた。

最新のデータから工学分野におけるジェンダーギャップの現状を知るきっかけとなり、本学教職員にとってダイバーシティへの理解を深め、意識改革を促進する貴重な機会となった。



# 日東電工株式会社の取組

## DE&I 講演会

- 日時（対象者） 2023年9月12日（管理職）、12月14日（一般従業員）
- 講師 NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事 川島高之
- 実施主体 日東電工株式会社 人財本部 DE&I 推進部

### 活動内容・報告

従業員への DE&I の理解浸透を図る目的で、9月に管理職を対象とした「ダイバーシティマネジメント～誰もが活躍できる職場 活躍させる上司～」と題した講演会を開催した。講師の実経験に基づく話の参加者満足度が非常に高かったことから、12月に一般従業員を対象とした「私生活も仕事の成果もよくばろう！～時間泥棒を逮捕せよ～」と題した講演会を開催した。私生活の充実と仕事の成果の両方を求める秘訣、その前提が DE&I と働き方改革であるといった内容が、参加した従業員からは「わかり易く共感でき、自身を見直すきっかけになった」との声が多く寄せられた。



# 研究力向上・リーダー育成のための取組

## 北海道大学の取組

### PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援

本事業は、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また自らが中心となって進める研究の発展につながるネットワークを構築する事を目的とし、企画するシンポジウムや研究会等の実施に必要な経費等を支援するものである。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22292/>

今年度は1件の支援を行った。

#### <2023年度支援実績>

- 名称 鳥と人の共生を考える生物音響学若手研究者セッション
- 日程 2023年10月27日～11月1日
- 実施責任者 理学研究院 相馬雅代准教授

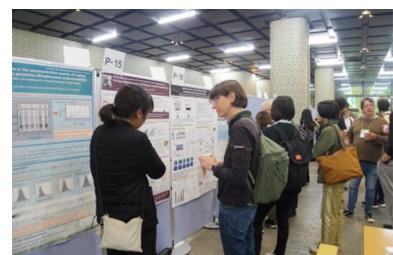
#### 支援報告書より

##### 【研究発展・ネットワーク構築】

本支援によるサポートを受け、Dr. Claire Spottiswoode（ケープタウン大学・南アフリカ、ケンブリッジ大学・英国）を招聘し、講演会を行い、それに続いて研究ディスカッションを行った。互いの現在進行中の研究プロジェクトに関する意見交換だけではなく、研究シードに相当するような「気づき」についてざっくばらんに語り合う機会を十分に持てたことで、今後、共同研究を進めたり、共著でのレビュー論文を執筆したりする可能性を考えることができた。特に、私自身が研究対象としている鳥類の一部はアフリカに分布しており、当地をフィールドとしている Spottiswoode 博士の知見は非常に有益だった。将来的には、学生や私自身のケープタウン訪問についても検討中である。

##### 【リーダースキル】

研究会運営や学会開催の業務自体はこれまでも多く経験しており、研究会開催自体が何か学びをもたらすとは当初あまり期待していなかった。しかし、多くの参加者から温かい言葉や励ましを得たことで、研究コミュニティの発展に対して尽力することの意義を改めて認識することができた。何より、「深呼吸してまず自分が楽しみなさい」と年配の研究者等から繰り返し言われ、運営に必死になりすぎず、余裕をもって研究交流を楽しむこと自体がリーダーのスキルとして必要であるということに気付かされた。



## 部局横断シンポジウム DEIセッション「若手研究者目線で考える DEI 研究環境」実施（ハイブリッド開催）

- 名称 部局横断シンポジウム DEIセッション「若手研究者目線で考える DEI 研究環境」
- 日時 2023年10月11日 11:00～12:00
- 会場 北海道大学医学部管理棟内 2-2 共通セミナー室、オンライン Zoom

総合司会： 矢野 理香

（副理事、DEI 推進本部副本部長、保健科学研究院 教授）

ファシリテーター：門出 健次

（総長補佐（研究戦略室担当）、先端生命科学研究院 教授）

### パネリスト発表（発表順）：

- ① 久保田 晋平（遺伝子病制御研究所 特任講師）～ DEI について
- ② 滝沢 侑子（低温科学研究所 准教授）～教育について
- ③ 向峯 あかり（化学反応創成研究拠点 ICR/DD 特任助教）～ DEI、教育について
- ④ 石原 すみれ（先端生命科学研究院 助教）～子育てとの両立について
- ⑤ 鈴木 明大（電子科学研究所 准教授）～子育てとの両立について
- ⑥ 松谷 悠祐（保健科学研究院 講師）～研究について

部局横断シンポジウムにおいて、「若手研究者目線で考える DEI 研究環境」をテーマとするセッションを開催した。DEI 推進本部 矢野理香副本部長による大学における DEI についての概要説明の後、総長補佐（研究戦略室担当）の門出健次先生をファシリテーターに迎えパネルディスカッションを行った。6名のパネリストは、DEI、教育、子育てとの両立、研究の各視点から DEI 研究環境に関して日頃感じている課題等について発表した。本セッションは教育・研究現場における研究者のリアルな声を聞く有意義な機会となった。DEI 推進本部では今後、課題の解決に向けて、その切実さや具体的なアイデアを大学執行部に伝えていくことが不可欠であると考えている。



## 積極的なアウトリーチ活動に向けたビジュアル作成コンサルティング支援

DEI 推進本部では、国際共同研究、異分野融合、産学連携等、本学女性研究者と他者との連携を促進することを目的に、特定の専門分野以外の研究者に自身の研究の魅力を効果的にアピールするための支援を実施した。

研究者が作成したポンチ絵やビジュアルアブストラクト等\*に対する、コンサルタント（科学技術コミュニケーション専門家）による指導・コンサルティングの機会（1回1時間のオンライン面談を2回）を提供するものである。

2023年度は2件の支援を行った。

\*ポンチ絵・ビジュアルアブストラクトとは、研究概要やコンセプトを1枚の図として示したものを指す。研究要旨図、ウェブサイトでの研究紹介図、申請書類等における研究概要図等が該当する。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22897/>

### 【2023年度支援一覧】

実施日	支援対象者
2023年12月18日、2024年1月15日	渡邊 美佳 北海道大学病院 皮膚科 助教
2023年12月21日、2024年1月18日	荒 桃子 北海道大学病院 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教

### 【コンサルタントからのレポート】

参加者2名に事前に講習動画を見ていただき、実際にご自身の動画の内容に沿ってブラッシュアップしていくことで、ビジュアル作成の要点が具体的な形で実感できたようです。お二人とも、1回目のコンサルティングでブラッシュアップの方向性が固まり、2回目までの宿題で完成度の高い資料を作ってくださいだったので、2回目のコンサルティングの前半で図がほぼ完成しました。余った時間で他のスライドなどの検討を行い、満足度の高いコンサルティングになったのではないかと考えています。今後は、2回のコンサルティングの時間配分について検討し、より一層充実した内容で実施できるよう工夫して参ります。

## 女性研究者リーダー育成共同研究助成

DEI 推進本部では、女性研究者の研究力の向上とリーダースキルの強化ならびに研究ネットワークの拡大を目的とし、自らがリーダーとして推進する優れた共同研究を計画する女性研究者への研究費助成を行った。2023 年度は 10 件の申請があり、5 件の研究テーマの採択を決定した。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22356/>

研究課題	研究代表者	共同研究者所属機関
糖尿病における幹細胞記憶に基づいた表皮恒常性維持破綻の解明	渡邊 美佳 助教 北海道大学病院	北海道大学
クライオ光-電子相関顕微鏡法による新規エンドソームの微細構造学的解析	釜崎 とも子 特任 助教 医学研究院	北海道大学
細胞メカノセンシングにおける微小管を中心としたシグナル伝達機構の役割	西村 有香子 講師 遺伝子病制御研究所	北海道大学 National University of Singapore
膵がん細胞においてリポフラビン経路およびMEKが制御する代謝経路の同定	大塩 貴子 助教 遺伝子病制御研究所	慶應義塾大学
北海道大学「国際インターンシップ」でのインターンシップ受入企業における指導スタッフのスキルとキャリア意識に着目した受入企業の効果に関する研究	川端 千鶴 講師 高等教育推進機構	北海道大学

## 北海道大学マイクロン女性研究者ロールモデル育成研究助成

ロールモデルとなりうる女性研究者を後押しすることを目的とした「北海道大学マイクロン女性研究者ロールモデル育成研究助成」について、2023 年度は 10 件の申請があり、3 件の研究テーマの採択が決定した

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22349/>

研究課題	研究代表者
妊婦のにおい過敏は何故起こる?:妊娠マウスの雄臭忌避行動の比較検討	矢野(梨本)沙織 助教 獣医学研究院
SARS-CoV-2の細胞内侵入を補助する宿主因子の解析	鈴木 紗織 助教 医学研究院
障がい者における安全な全身麻酔方法の確立に向けて—自閉スペクトラム症患者における全身麻酔時の身体抑制回避の試み—	渋谷 真希子 助教 歯学研究院

## 株式会社アミノアップの取組

### 女性研究員の International Visitor Leadership Program への参加

米国国務省主催にて開催された日本におけるバイオエコノミーの商業化促進プログラムの International Visitor Leadership Program (IVLP) に弊社の女性研究員が参加した。IVLP は各国新興リーダーを対象としたプロフェッショナルレベルの交流イニシアチブである。

- 名称 Enhancing Japanese Bioeconomy Commercialization A Project for Japan
- 日時 2023年8月12日～9月2日
- 対象者 日本のバイオ研究、バイオエコノミー商業化戦略に関係する人材
- 場所 アメリカ合衆国（ワシントンD.C.、ボストン、フィラデルフィア、オーランド）のバイオエコノミーに関連する施設各所
- 参加者数 6名

#### 活動内容・報告

本プロジェクトには日本各所の食品、医薬品関連の開発関係者、医師、官公庁の職員など様々な分野から男女合わせて6名が参加した。3週間のプログラムで米国東海岸を中心に効率の良い技術移転システムを構築しているバイオクラスターを訪問し、各所で特色あるバイオエコシステムについて説明を受けた。価値のある研修シーズを商業化していくことを目的として各機関の連携を強化していた。それを実現するためのビジネスモデルとして、バイオベンチャーが成長していくために必要なアクセラレーター、インキュベーターと研究シーズを生み出す研究施設の連携体制がきちんと整備されているように感じた。また、ベンチャーキャピタルの投資対象となるスタートアップが選ばれるコンペティションが各所で行われていたことが印象的であった。また、米国で会議に参加していた研究者には管理職に就いている女性も多く、日本との違いを感じた。日本からプログラムに参加した女性研究者や研修中ガイドをしてくださった米国在住の通訳の女性と各国での女性の働き方についても議論することができ、現在の日本の産休・育休の制度やキャリアプランについても改めて考える機会となった。

# 上位職への積極的登用に向けた取組

## 連携機関全体の取組

### 研究力向上・リーダー育成セミナー（教員向けセミナー）

- 名称 全3回シリーズ「PIを目指す女性研究者のための“Leadership Acceleration Program for Women in Academia: Increase your influence!”
- 日時
  - ① 2023年12月4日
  - ② 2024年1月17日
  - ③ 2024年2月7日
 開催はいずれも9:00～13:00
- 対象者 KNIT 連携機関に所属する女性研究者
- 場所
  - 第1回：北海道大学中央キャンパス総合研究棟1号館
  - 第2回、第3回：オンライン：Zoom
- 参加者数 各回10名程度
- 講師 Dr. Iris WIECZOREK  
(IRIS Science Management Inc. 代表)

### 活動内容・報告

女性研究者のリーダーシップやマネジメント能力の向上を目的として、2023年12月から2024年2月まで全3回のセミナー「PIを目指す女性研究者のための“Leadership Acceleration Program for Women in Academia: Increase your influence!”」を開催した。

講師には IRIS 科学・技術経営研究所代表 Dr. Iris WIECZOREK (Dr. I. ヴィーツォレック) さんをお招きし、全3回のプログラムを開催しました（対面開催1回、オンライン開催2回）。各セッション前に講師が出した課題に取り組んでいただき、参加者同士でディスカッションを行うなど、非常に活発でインタラクティブなセミナーとなった。

### 各回テーマ（全3回）

- ① Managing Yourself & (Self-)Presentation
- ② Building Your Team
- ③ Conflict Management

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/23039/>

IRIS SCIENCE MANAGEMENT INC.

PIを目指す女性研究者のための  
**Leadership Acceleration Program for Women in Academia**  
: Increase your influence!

1 On-site at Hokkaido Univ. Managing Yourself & (Self-)Presentation Dec/4/2023 (Mon) 9:00~13:00

2 Online Zoom Building Your Team Jan/17/2024 (Wed) 9:00~13:00

3 Online Zoom Conflict Management Feb/7/2024 (Wed) 9:00~13:00

全3回シリーズ★①:対面開催 ②③:オンライン開催!

本セミナーは、リーダーシップと研究マネジメントスキルの実践的な知識を学ぶためのプログラムです。  
This is a three-part seminar series that provides practical knowledge on leadership and research management skills.  
各回定員/Capacity of per seminar: 14 participants  
使用言語/Language: English

※単身での参加も可能です。  
\*It is possible to attend only one seminar.

北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部  
Office of Diversity, Equity, and Inclusion  
<https://www.dei.hokudai.ac.jp/>

Lecturer: Dr. Iris WIECZOREK, President, IRIS Science Management Inc., IRIS 科学・技術経営研究所

詳細・お申し込みはこちらから!  
Details & Registration  
<https://bit.ly/iris2023hu>



## 北海道大学の取組

### 上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員（以下「メンター」という）とのメンタリングやジョブシャドウイングを行う自主的な研修を支援するものである。

この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としている。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22874/>

- 採択件数 2 件（学内 1 件、学外 1 件）

研修者	メンター	期間
医学研究院 助教 伊 敏	薬学研究院 教授 小川美香子	2023年12月18日
工学研究院 助教 Geun-Yong HAM	国立環境研究所 主幹研究員 石垣 智基	2024年2月14日～2月15日

# 室蘭工業大学の取組

## 教職員のためのダイバーシティセミナー 2023

教職員のダイバーシティに対する意識向上をめざしたセミナーを毎年開催しており、2023年度の開催状況は以下の通りである。

- 日時 2023年11月15日 13:30～15:00
- 対象者 室蘭工業大学の教職員、学生、一般
- 場所 Zoom ウェビナー
- 参加者数 26名
- 講師 大学女性協会 会長 岩村 道子 氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

### 活動内容・報告

本年度は、講師に大学女性協会会長 岩村道子氏を招き、「NGOにおける次世代女性への応援事業—大学女性協会の活動を例として」と題して、大学女性協会（JAUW）の各賞・奨学金事業をご紹介いただくとともに、奨学事業の喫緊の課題についてご講演いただいた。

当日は本学教職員及び執行役員のほか、学生及びKNIT共同実施機関の方も含めて26名の参加があった。参加者からは「女性が活躍する状況が分かり、励みになった」「大学女性協会の活動を知ることができました。また、講演後の質疑でも多岐に渡るお話を頂き、参考になりました。」などの感想が寄せられ、盛況のうちに終了した。

### 教職員のためのダイバーシティセミナー2023

NGOにおける次世代女性への応援事業  
—大学女性協会の活動を例として

日時 2023年11月15日(水)  
13:30～15:00

会場 ZOOMによる  
オンライン開催

#### プログラム

- ◆開会の挨拶 (13:30～13:35)  
室蘭工業大学 副学長 学長
- ◆開演 (13:35～14:30)  
『NGOにおける次世代女性への応援事業—大学女性協会の活動を例として』  
一般社団法人大学女性協会 岩村 道子 会長
- ◆質疑応答 (14:35～14:55)  
室蘭工業大学 松田 雅夫 理事・副学長
- ◆閉会の挨拶 (14:55～15:00)  
室蘭工業大学 松田 雅夫 理事・副学長

#### 対象

全教職員  
本学の中・大・大学院生の教職員、学生及び一般  
のオンライン参加も可能  
※Zoomの参加には、事前にZoomの申込フォーム  
より11/14(火)までに申し込みが必要です。

講師  
岩村 道子 氏  
一般社団法人  
大学女性協会 会長  
(東京大学理学部名誉教授)

お隣の次女子大学付属小学校・中学校・高等学校長。  
1959年に東京大学教養学部理科一類に入学。  
1981年に東京大学理学部化学科に進学。  
1983年東京大学大学院理学研究科後期課程修了。  
博士(理学)を修得。  
1983年3月から1989年9月まで米国ウィスコンシン大学化学科博士研究員。  
1989年室蘭工業大学教職課程に専任。助教授、  
教授を経て2026年同名教授。  
2008年サイエンスカフェイン/高橋を設立。  
2022年5月より一般社団法人大学女性協会会  
長に就任。

室蘭工業大学 男女共同参画推進室  
お問い合わせ  
TEL 0153-445-5019  
お申し込み  
E-mail uff@muroran-it.ac.jp  
URL https://u.muroran-it.ac.jp/qa\_uff/



## 2 JAUWの「奨学・奨励」事業

一般社団法人大学女性協会 (JAUW)



### 5つの賞・奨学金

大学女性協会では5つの賞・奨学金を用意して、将来のリーダーとなる女性の勉学と研究活動を応援しています。



## 帯広畜産大学の取組

### 学長と女性研究者との懇談会

女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組の一環として、以下の意見交換を実施した。

- 名称 学長と女性研究者との懇談会
- 日時 2023年4月1日 他6回
- 対象者 帯広畜産大学で新規採用・昇任した教員
- 対談者 学長 長澤 秀行
- 実施主体 帯広畜産大学ダイバーシティ推進室

### 活動内容・報告

帯広畜産大学では、新規採用および学内昇任した教員と学長との懇談会を随時実施している。令和5年度は、新規採用となった教員11名（うち女性4名）および昇任した教員7名（うち女性1名）に対し、長澤学長から本学で実施するダイバーシティ関連制度の説明があり、その後、ダイバーシティ関連の課題や要望等について意見交換を行い、ダイバーシティを意識した研究環境を実現するための意識醸成を図った。

対談した教員からは、本学のダイバーシティに関する考え方や関連する支援制度について理解することができたとの感想があった。

なお、帯広畜産大学では、女性研究者の登用を進めており、女性研究者比率は本事業採択前の13.5%（平成30年度末）から16.6%（令和6年度末）に上昇している。

- 対談する長澤学長（写真左側）と中林准教授（写真右側）



# 北見工業大学の取組

## ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会

女性教員が大学の研究推進戦略を理解し研究マネジメントの視点を獲得するとともに、本学のダイバーシティ推進活動の推進に向けた意見交換を行うため、学長・理事と女性教員等の懇談会を実施した。

- 名称       ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会
- 日時       2024年1月11日 15:30～17:15
- 対象者     北見工業大学所属女性教員及びダイバーシティ推進室員
- 場所       北見工業大学第1会議室
- 参加者数   15名
- 実施主体   北見工業大学ダイバーシティ推進室

### 活動内容・報告

まず、ダイバーシティ推進室副室長から本学ダイバーシティ推進室のこれまでの取組についての説明、総務担当副学長から北海道国立大学機構のダイバーシティ推進室における取組や行動計画について紹介があった。引き続きダイバーシティ推進室員である近藤寛子助教より、現在取り組んでいる研究についてのプレゼンがあり、研究対象であるヘムタンパク質の構造や性質、解析の方法等の説明があった。

その後は学長も交えて、ダイバーシティ支援内容に関する教員からの意見要望、女子学生を含めた志願者増に向けた取組等について積極的に意見交換が行われた。



## 日東電工株式会社の取組

### 女性リーダー育成プログラム（FLOWERプログラム）

- 期間 2023年6月～2024年3月
- 対象者 係長クラスの女性
- 参加者数 25名
- 実施主体 日東電工株式会社 人財本部 DE&I 推進部

#### 活動内容・報告

Nitto グループは、2030年「女性リーダー比率30%」「エンゲージメントスコア85」「チャレンジ比率85%」の未財務目標を掲げている。女性リーダー育成プログラム（FLOWERプログラム）においては、経営幹部や上司、人財本部が一体となり、対象者のキャリア開発支援を行うことで、組織を牽引するリーダーが多く育ち、期待される成果につなげていくことを目指している。



# 女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他

## 北海道大学の取組

### 女性研究者ロールモデルインタビュー「FIKA」の発信

女性ロールモデル発信の取組として、大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（以下 CoSTEP）と DEI 推進本部が連携して企画した。

CoSTEP が教育・実践活動の一環として企画・執筆・公開している北海道大学の魅力を発信するウェブマガジン『いいね! Hokudai』カテゴリ【ようこそ先輩】にて、2023 年度は 9 本の記事を掲載した。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/interview/>

### 2023年度FIKA記事

祖父の記憶とともに博物館の未来を見る	卓彦伶先生 (文学研究院 特任准教授) [FIKA No.3]
悩んだ先にあった海外での大学院生活	大友瑠璃子先生 (国際広報メディア・観光学院 准教授) [FIKA No.4]
研究者を目指さなくても研究者になれる～思い込みに振り回されないキャリアの選択～	小川美香子先生 (薬学研究院 教授) [FIKA No.5]
動物園獣医師を目指して進んだ先にあった研究者という道	矢野沙織先生 (獣医学研究院 助教) [FIKA No.6]
水産学部初の女性准教授として切り開いた道	笠井久会先生 (水産科学研究院 准教授) [FIKA No.7]
女性医師として多様なキャリアパスを求めて	福津佳苗先生 (医学研究院 医員) [FIKA No.8]
過去と向き合いながら進んできた自分の道	鈴木育美先生 (学生相談総合センター 講師) [FIKA No.9]
臨床に寄り添う研究者を目指して	安田佳永さん (保健科学院 博士後期課程) [FIKA No.10]
資源工学の発展とともに歩む研究者の道	伊藤真由美先生 (工学研究院 教授) [FIKA No.11]



## 北海道大学大塚賞交流会

- 名称 北海道大学大塚賞\*交流会
- 日時 2024年3月19日 15:00～16:00
- 場所 北海道大学事務局2号館1階 中会議室A
- 参加者数 16名：大塚 榮子名誉教授、過去受賞者（本学教員）、令和5年度受賞者
- 主催 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

\*北海道大学大塚賞：北海道大学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のため、平成17年に設けられた奨励金制度

### 活動内容・報告

令和5年度北海道大学大塚賞では、研究者を目指す優秀な女子学生10名（令和5年度内の博士課程修了予定者8名及び既修了者2名）が受賞者として選ばれた。

授与式では、寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、山口淳二理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長、平田公明学務部長列席の下、寶金総長より賞状が授与された。

DEI推進本部では、授与式終了後に受賞者と、大塚名誉教授、過去に大塚賞を受賞された本学教員との交流会を企画・実施した。

交流会では、各受賞者が自己紹介として〈博士課程での研究テーマ・今後の予定やキャリアプラン〉を発表した。大塚先生からは、「受賞者の発表のスキルが向上しているのでこれからも情報発信能力を向上してほしい」とのお言葉や、「大塚賞OGの方から声を掛けられるのが大変嬉しい」「女性教員が増えないことが悩みの種」などのお話の他、受賞者の今後の活躍を期待するメッセージをいただいた。さらに、過去受賞者であるOGの先生方からは、「受賞した時には（現職位の）教授になるとは夢にも思っていなかった」「ライフイベントと研究の両立に困難を感じることもあるが、大塚賞を受賞したことが心の支えになっている」「しなやかに色々な壁を乗り越えて活躍してほしい」などのお言葉をいただいた。

軽食を摂りながらリラックスした雰囲気の中、大塚先生と優秀な若手研究者である受賞者、OGの先生との貴重な懇談の場となった。それぞれが大塚先生と直接お話をする貴重な機会となり、さらには受賞者同士のネットワーキングの広がりにもつながったようであった。

交流会全体を通して、女子学生に対して多様なキャリアパスとロールモデルを提示することができ、大変盛会のうちに終えることができた。



# 室蘭工業大学の取組

## キャリア形成のためのランチタイムセミナー

女性研究者の裾野拡大をめざし学生を対象に行うランチタイムセミナーの2023年度の開催状況は以下の通りである。

- 名称 キャリア形成のためのランチタイムセミナー第18回
- 日時 2023年11月14日 12:10～12:50
- 対象者 室蘭工業大学の学部学生・大学院生 他
- 場所 Zoom ウェビナー
- 参加者数 14名
- 講師 大学女性協会 会長 岩村 道子 氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

### 活動内容・報告

講師には大学女性協会 会長の岩村道子氏を招き、今よりも女性のロールモデルが少なかった時代に理系研究者の道へ進んだきっかけや就職の際にぶつかったジェンダーの壁、また退職後の大学女性協会での活動についてお話いただいた。

当日は14名の参加があり、参加者からは「元祖リケジョとしての実体験に基づいたお話は迫力がありました。」「まだ女性科学者があまり活躍していない時代から研究者として活躍してこられた先生のお話が聞けて良かったです。」などの感想が寄せられ、好評のうちに終了した。



### キャリア形成のためのランチタイムセミナー第18回

キャリア形成のためのランチタイムセミナーは、企業や大学等の研究機関で活躍する女性研究者や女性技術者をゲストにお招きし、学生が今後のキャリアプランを考えるために参考となる情報を提供するものです。

「遠い昔に私がリケジョとなったわけ」

講師

一般社団法人大学女性協会 会長  
岩村 道子 氏

1959年に東京大学理学部理学科一類に入学者、1961年に東京大学理学部化学科に進学。1968年東京大学大学院理学研究科物理専攻修士(理学)を修得。1968年8月から1969年9月まで米国ウィスコンシン大学化学科博士研究員。1969年室蘭工業大学理学部講師に就任、助教授、教授を経て2006年副学長教授。2008年サイエンスカフェ・イン・高輪を設立。2022年8月より一般社団法人大学女性協会会長に就任。



日時 令和5年11月14日(火)12:10～12:50

場所 ZOOMによるオンラインセミナー

※事前申込制 下記のURLまたはQRコードよりお申込みください  
[https://us02web.zoom.us/join/register?WV\\_LJDI0CBgRtEIV4qZU8nGA](https://us02web.zoom.us/join/register?WV_LJDI0CBgRtEIV4qZU8nGA)



対象 本学の学部学生・大学院生

締切 令和5年11月13日(月)

申込・問合せ

室蘭工業大学 男女共同参画推進室

TEL 0143-46-5018

E-mail [ufr@muroran-it.ac.jp](mailto:ufr@muroran-it.ac.jp)

URL [https://u.muroran-it.ac.jp/ge\\_ufr/](https://u.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/)

## キャリア形成のためのランチタイムセミナー

- 名称 キャリア形成のためのランチタイムセミナー第19回
- 日時 2024年1月16日 12:10～12:50
- 対象者 室蘭工業大学の学部学生・大学院生 他
- 場所 室蘭工業大学 教育・研究1号館 A317室
- 参加数 19名
- 講師 株式会社サイバコ CEO 岩瀬峰代 氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

### 活動内容・報告

今年度2回目の講師は株式会社サイバコ CEOの岩瀬峰代先生でした。当初目指していたものと全く異なるキャリアを築き上げ、行く先々で新しい分野を学び続けたことや、現在の会社を設立するに至るまでをお話いただきました。

当日は19名の参加があり、参加者からは「将来を考える上で人生の選択はいろいろあって行った場所で頑張ることで様々な世界の広がり方があるんだと思った」「色々な働き方があるのだと感じた。大学で学んだことに関する仕事に必ずしもつくわけではないのだと改めて思った」などの感想が寄せられ、今後のキャリア形成を考える機会となりました。



### キャリア形成のためのランチタイムセミナー第19回

キャリア形成のためのランチタイムセミナーは、企業や大学等の研究機関で活躍する女性研究者や女性技術者をゲストにお招きし、学生が今後のキャリアプランを考えるために参考となる情報を提供するものです。

#### 「キャリアは選ぶのか？選ばれるのか？それとも…」

講師

株式会社サイバコ CEO

岩瀬 峰代 氏



新潟県出身、横浜市立大学文理学部生物学科卒、総合研究大学院大学先端科学研究所生命体科学専攻修了、総合研究大学院大学 全学事業推進室長・学融合推進センター講師、鳥取大学 大学教育センター准教授を経て、令和5年5月より現職。「癌の発生と組織学的研究」「DNA配列を用いた性染色体進化の研究」のそれぞれで学位（博士）を取得。さらにアントレプレナーシップ教育、地域連携型教育の実践の中で教育方法、教育評価法に関する研究も進めた。

現在は、サイエンス、教育、地域をキーワードにサイエンスコミュニケーターとともにコミュニケーションのあり方を探りつつ、対話の場の創出に奮闘中。CoSTEP13 推進科 A 修了。

日時 令和6年1月16日(火) 12:10～12:50

場所 室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室

対象 本学の学部学生・大学院生 ※事前申込制

締切 令和6年1月15日(月)

お弁当は付きませんが、お持込みでの飲食は可能です。

室蘭工業大学 男女共同参画推進室

申込・問合せ

申込URL <https://forms.gle/2LTXJNTRSJnBYwv7>

QRコードでもお申込み可能です ⇒

TEL 0143-46-5018

E-mail [ufr@muran-it.ac.jp](mailto:ufr@muran-it.ac.jp)

URL [https://u.muran-it.ac.jp/ge\\_ufr](https://u.muran-it.ac.jp/ge_ufr)



## 帯広畜産大学の取組

### 海外留学経験者座談会

ダイバーシティ研究環境整備のための取組ならびに女性研究者のすそ野拡大・キャリアマネジメント促進の取組の一環として、本座談会を実施した。

- 名称 海外留学経験者座談会
- 日時 2023年12月22日～2024年1月31日
- 対象者 帯広畜産大学の教職員
- 場所 オンデマンド配信（39名視聴）
- 講演者 獣医学研究部門 小川 晴子 教授  
環境農学研究部門 小池 正徳 教授  
生命・食料科学研究部門 島田 謙一郎 教授  
獣医学研究部門 松井 基純 教授  
～インタビュアー～  
グローバルアグロメディシン研究センター 滄木 孝弘 准教授
- 実施主体 帯広畜産大学ダイバーシティ推進室

### 活動内容・報告

海外留学や研修は、研究の視野を広げ、知見を深める有用な機会となるが、在外研究員制度の廃止や助教の任期制、コロナ禍などの理由により、若手教員の海外へ行く機会が減っている。しかし、若手教員にとって、海外での経験は、新たな研究ネットワーク形成や、学生への教育および研究業績の向上につながると考えられる。そこで今回は、海外留学・研修の経験のある教員から対談形式でお話を伺った。

渡航時の身分は様々であるが、留学先の研究室の状況や研究に対する姿勢、大学における教育と研究の位置づけは日本の大学と大きく異なり、非常に刺激を受けたため、学生や若手研究者にぜひ経験してほしいというお考えを強く話されていた。さらに単身またはご家族連れの渡航による日常生活の思い出などもお話し頂き、研究以外の経験談も共有いただけた。視聴者からは、留学を希望する声や若手研究者の留学制度に関するアイデア等を頂き、本学教員の留学制度を検討する上で有益な機会となった。



写真は左から小川教授・小池教授・島田教授・松井教授・滄木准教授

## 北見工業大学の取組

### 次世代研究者のための講演会

社会で活躍する若手研究者に自身の体験を交えて研究者生活を語っていただくことで、本学学生及び周辺高校の生徒に研究及び研究職の魅力を理解してもらうための講演会を開催した。

- 名称 次世代研究者のための講演会「私が大学教員になるまでのストーリー」
- 日時 2023年7月14日 10:30～12:00
- 対象者 北見工業大学所属学生・教職員
- 場所 北見工業大学 E231 講義室
- 参加者数 37名
- 講師 北海道大学大学院工学研究院材料科学部門  
助教 米田 鈴枝 氏
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室

**次世代研究者のための講演会**  
7/14 (金) 10:30～12:00  
会場: E231講義室

**題目**  
私が大学教員になるまでのストーリー

**講師**  
北海道大学大学院工学研究院  
材料科学部門  
助教 米田 鈴枝 氏

**対象**  
本学学生及び周辺高校の高校生

**主催**  
ダイバーシティ推進室

【問合せ先】  
北見工業大学企画総務課人事係  
E-mail: soumu06@desk.kitami-it.ac.jp

### 活動内容・報告

社会で活躍する若手研究者である米田 鈴枝氏から、研究者を目指したきっかけや道のり、自身の大学生活や研究者生活について具体的に説明していただいた。海外での経験や企業との共同研究についての体験談など、普段あまり聞く機会のない研究者のリアルな話もあったことから、参加した学生は自身の進路を考える上で具体的なイメージを持つきっかけとなり、大変参考になったようであった。

学生からは「若手研究者の生の声を聞けたことが良かった」という声が多く、講演後の質疑応答も非常に活発だったことから、学生にとって貴重な機会であったことがうかがえ、研究者のすそ野拡大に資する有意義な講演会となった。



## オープンキャンパス リケジヨの輪

女性研究者裾野拡大の第一歩となる女子高校生への理系進学を促進を目的に、本学女子学生による自身の研究活動の紹介や相談対応を通じて、工業大学への進学に対する不安解消及び学生生活について理解を得るための企画を実施した。

- 名称 オープンキャンパス リケジヨの輪
- 日時 2023年7月29日 13:00～14:00
- 対象者 北見工業大学オープンキャンパス参加者
- 場所 北見工業大学 A105 講義室
- 参加者数 21名
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室



### 活動内容・報告

本学の大学院に在籍する女子学生が自身の研究紹介、サークル活動やアルバイト、友人との旅行などの大学生活などを高校生や同席した保護者に分かりやすく発表を行い、その後参加者との質疑応答を実施した。高校生や保護者からは研究内容の詳細や、現在取り組んでいる研究テーマと将来就きたい仕事との関係、またアパートや寮などの住環境についての質問があった。女子学生が各質問に対して実体験を交えた回答により、本学での女子の学生生活の実態が理解でき安心した様子であった。

アンケートからも「女子学生のお話を実際に聞くことができたので実感がわいた」、「それぞれの学部で学んでいることや学生生活について知ることができた」などの感想があり、女子学生が少ない工業大学への進学に対する不安解消、及び学生生活への理解の一助となった。



## 大学院進学に向けた学生懇談会

女性研究者裾野拡大には、大学院への進学者を増加させることが必要不可欠である。分野によっては身近に女子大学院生がいない環境の学部生もいるため、進学に対する不安解消及び大学院生活について周知するため、学部学生と大学院女子学生との懇談会を実施した。

- 名称 大学院進学に向けた学生懇談会
- 日時 2024年1月19日 12:20～12:50
- 対象者 北見工業大学学生
- 場所 北見工業大学 A102 講義室
- 参加者数 学生4名及び教職員4名
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室



### 活動内容・報告

博士前期課程2年に在籍している女子学生に、自身の研究生生活や大学院進学のかきかけ、就職活動の経験等を話してもらった。

学部学生にとっては、将来、研究室を選択する上での観点や、研究室の方針や研究内容によって異なる大学院生の生活、就職活動や学会発表についてなど、大学院生自身の経験を踏まえた具体的な助言を受ける機会となり、進学を考える上での参考になったと思われる。

参加者数はあまり伸びなかったが、参加者からは積極的に質問があり、次回も参加したいという意見も出るなど、満足度は高いと思われる。次年度に向けてより多くの学部学生が参加できるように、内容、開催時期を含めて引き続き検討したい。



# 株式会社アミノアップの取組

## ハサヌディン大学の学生インターンシップ受け入れ

医薬品を取り巻く問題を解決するために必要なスキルと知識を備えた高レベルな医療従事者を訓練する目的で、インドネシアハサヌディン大学と弊社が協力してインターンシッププログラムを確立した。本プログラムでは毎年3～4名の学生を受け入れることとなっており、今年度よりインターンシップの学生の受け入れを開始した。

- 名称       ハサヌディン大学 - アミノアップ インターンシッププログラム
- 日時       2023年6月26日～7月13日
- 対象者     ハサヌディン大学薬学部・大学生
- 場所       株式会社アミノアップ～中央実験室、品質管理室、工場等
- 参加者数   学生3名、引率教員1名
- 実施主体   株式会社アミノアップ

### 活動内容・報告

プログラムでは個々の学生の教育と将来のキャリア形成に必要な実践的なスキルの習得を目指しており、弊社の研究開発、営業、製造業務について研修を行った。研修は全15日間にわたって行われ、各部門の担当者を講師としてOJTを交えた研修を実施した。最終日には学生の研修報告会を開催し、本プログラムで学んだことについて発表してもらった。参加した学生からは「他の企業への訪問もあった方が良い」、「15日間の研修期間では足りなかった」等の意見があり、次年度からの研修内容の改善に反映させていきたい。





文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

**2023 年度  
活動報告書**

発行：2024 年 3 月

発行者：北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク

（北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見

工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社）

お問い合わせ：knit@synfoster.hokudai.ac.jp



Knit a network  
for diversity and inclusion toward innovation

